

博士論文の審査結果の要旨

| | | | |
|--|---|--------|-------|
| 専攻 | 保健医療学 | 分野 | 作業療法学 |
| 学籍番号 | 16S3063 | 院生氏名 | 宮寺亮輔 |
| 通学キャンパス | 赤坂キャンパス | | |
| 論文題目 | 高齢者の身体能力認知誤差の要因および転倒リスクに与える影響 | | |
| 審査結果（枠で囲む） | <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> 合格 不合格 </div> | | |
| <p><審査結果の要旨></p> <p>1. 主論文について：動的バランス検査として用いられている臨床評価テストにおいて、先行研究で誤差に着目した研究が進められ、課題における所要時間は実測値と予測値の認識において非転倒者に比べて転倒者は誤差が大きくなることが明らかになっている。論文提出者は、この誤差は身体能力、協調性、認知機能の誤差によって生じると研究仮説を立案して因果関係について検討を進めた。身体能力認知誤差が転倒リスクに与える影響は身体能力認知誤差という形に転化して評価できることが明らかとなり、転倒歴、FRT 誤差、TUG 誤差の結果からある一定の基準で転倒とリスクに対する判別が可能であることを提言した。よって、本論文結果より転倒 予測の評価は、身体機能だけでなく身体能力認知評価の必要性が示唆された関与していることを明らかにした。本研究の新規性は、転倒予測における評価開発に向けて分析を進めた結果、対象者が自己の身体能力を認知し動作を行っているかを定量的に評価できることを明らかにしており、転倒予防における自己効力に貢献する研究として高く評価できると考える。</p> <p>2. 審査会は平成 30 年 12 月 10 日に開催し、初回審査では目的と結論の整合性、論文書式の体裁、本論文で着目した各指標（身体能力認知誤差、副次的評価項目）の内容妥当性に関する説明、身体能力認知誤差の検査の必要性、協調性検査と重心動揺検査の解釈などについて論文の修正を求めた。翌年平成 31 年 1 月 6 日および 16 日に再提出された論文で適切に修正され、論文の論証、形式も的確に記載されていたことを書類審査で確認した。</p> <p>3. 各審査での口頭試問でも明瞭な発表を行い、結果の解釈などについての質問に的確に答え、指摘された部分については真摯に対応し適切に応答した。</p> <p>4. 以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士（保健医療学）の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p> | | | |
| 論文審査担当者 | 主 査 | 金子 純一郎 | |
| | 副 査 | 後藤 純信 | |
| | 副 査 | 糸数 昌史 | |